

NEWS LETTER
会報

紙リサイクルにもっとたくさんの方が参加する土台づくり。



紙リサイクルセミナー
古紙再生促進センター 後援：経済産業省

ごみゼロ社会とは

- ・欧米では、Waste Free Society
Zero Waste Society
- ・処分するごみを可能な限りゼロにし、環境への負荷が小さい循環型のまちづくりを形成する
- ・排出者である市民、事業者各々がごみ問題を意識するだけでなく、実際に行動につなげていくこと



Topics

- 年頭挨拶 (古紙再生促進センター 代表理事)
- 年頭所感 (経済産業省 製造産業局 素材産業課長)
- 紙リサイクルセミナー 開催報告



公益財団法人 古紙再生促進センター



目次

P2 活動報告

P2 年頭挨拶

公益財団法人古紙再生促進センター
代表理事 長谷川 一郎

P4 年頭所感

経済産業省 製造産業局 素材産業課長
土屋 博史 氏

P6 紙リサイクルセミナー報告

P12 雑がみさまを探せ！実施報告（石川県・福岡県）

P14 センター日誌

センター日誌 令和7年10月～12月分





令和8年 年頭挨拶

公益財団法人古紙再生促進センター
代表理事 長谷川 一郎

令和8年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年10月に発表されましたノーベル賞において、日本人が生理学・医学賞と化学賞を受賞し、一昨年の平和賞に続き、2年連続の受賞となりましたことは、大変喜ばしい出来事でした。それ故に、我が国の医学や素材の基礎研究が世界のトップに位置していることを改めて知らしめることとなりました。

昨年の我が国経済におきましては、内閣府の月例経済報告において、景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復しているとされております。

国内政治の面を見ますと、昨年10月に、石破政権に代わり、高市自民党総裁が総理大臣に指名され、憲政史上初めて、女性の総理大臣が誕生しました。また、日本維新の会との連立政権が発足し、その後、かろうじて衆議院の過半数を確保しましたが、政権運営は難しい舵取りが続くものと思われまます。

かかる状況において、政府は、昨年11月に生活の安全保障・物価高への対応、危機管理投資・成長投資による強い経済の実現及び防衛力と外交力の強化を柱とした総合経済対策として、約18兆円規模の補正予算を先月、国会に提出し、可決成立しました。

さて、古紙を取り巻く状況を見ますと、近年、古紙の発生が低調に推移し、古紙回収量の漸減傾向に歯止めがかかりません。現に、昨年1月～10月までの古紙回収量は、約1,350万トンにとどまり、一昨年より、約40万トン減少のペースです。

このことは、製紙業界や古紙業界における古紙の需給や在庫量等に、少なからず影響を及ぼしている状況にあります。

当センターといたしましても、我が国の紙リサイクルシステムの維持・向上を目指し、需給両業界と常に意見交換をしつつ、需給の安定化を図ってまいりたいと存じます。

こうした中、一昨年春に公表しました「サステナブルチャレンジ 2050・共創共生」における紙リサイクルの中長期課題への取り組みにおいて、様々なステークホルダーからのご意見を踏まえて20の課題をとりまとめました。これらの課題に基づき、昨年からは、5か年計画の中期的ロードマップである「Towards2030 & Beyond」を策定し、具体的なアクションの一つとして、未利用古紙の回収・利用等を目指した、地域循環共生社会づくり・啓発モデル実験「雑がみ掘り起こしに向けて」に取り組んでいるところであります。

来年度からは、本取り組みの拡大を目指し、需給両業界のみならず、自治体や研究・教育機関等とのパートナーシップ構築を図ることにより、資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成に貢献してまいります。

本年も製紙業界、古紙業界にとって大変厳しい状況が続くかと思われませんが、当センターといたしましては、我が国の紙リサイクルの健全なる発展に影響を及ぼさないよう、行政、製紙業界、古紙業界、回収業界など、様々なステークホルダーの方々と多様な交流を推進し、相互理解を深め、古紙市場、経済動向についても知見を広げつつ、今後とも安定した紙リサイクルを目指してまいります。また、製紙業界、古紙業界をはじめとする様々な紙リサイクル関係者の叡智を結集し、紙リサイクルの促進の要として諸活動を進めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、我が国の古紙の需給が安定し、需給両業界が長期的な共存体制を確立させ、将来に向けて明るい展望が開けますことを願うとともに、本年が皆様方にとりまして、希望に満ちた良い年となりますよう心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭所感

経済産業省 製造産業局
素材産業課長 土屋 博史氏

令和8年の新年を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

世界では、米国の関税措置や、米中歐をはじめ各国による自国優先の大規模な産業政策の展開など、自由主義経済に代わる新たな国際秩序が生まれようとしています。国内に目を向けると、賃上げや国内投資が約30年ぶりの高水準となり、名目GDPも600兆円の大台を超えるなど、日本経済に明るい兆しが現れています。

他方で、我が国は人口減少や少子高齢化という構造的要因に直面するとともに、世界的な資源価格の変動など、外部要因も重なったインフレ圧力などの多くの懸念も抱えています。

こうした状況の中、現下のマクロ経済環境を踏まえ、米国の関税措置などの国際秩序の変化に対応しつつ、事業者の皆様とともに「強い経済」を実現していくために、供給力の強化や輸出拡大も含めた成長戦略、産業の国際競争力強化の重要性がますます高まっています。

昨年10月に誕生した高市政権において、重要鉱物・部素材を含むマテリアル分野、航空宇宙分野、防衛産業分野など、危機管理投資・成長投資の対象となる戦略分野が示されました。マテリアル分野については、研究開発や設備投資の促進、サプライチェーン強靱化などを視野に、今後具体的な施策の検討を進め、今年夏頃を目途に成長戦略を取りまとめまいります。

こうした投資を官民一体で推し進めることは、経済安全保障の観点からも重要であり、我が国の自律性・不可欠性を高めることにもつながります。

特に紙・パルプ産業をはじめとする素材産業は、我々の身の回りにある多様な製品を供給する基幹産業です。サプライチェーンの要である素材産業において、技術の更なる優位性や重要物資の安定供給を実現することで、国内産業全体のサプライチェーンをより強靱化していく必要があります。経済産業省としても、引き続き産業界と密に連携しながら全力で取り組んでまいります。

また、レアアースや半導体等の重要な物資については、特定の国に過度に依存することのない強靱なサプライチェーンを構築するため、有志国と連携し、新たな供給源の形成を進めてまいります。事業者の皆様におかれましても、供給源の多角化を積極的にご検討いただくなど、特定の国に依存しない生産体制を構築していただきますよう、よろしくお願いいたします。

GXの分野につきましては、昨年度、排出量取引制度を義務化する改正GX推進法が成立し、来年度から本格稼働します。昨年来、原単位の調整など、排出量取引制度の具体的な設計を議論してきましたが、来年度はいよいよ実行の段階です。経済産業省としては、その取組を一層進めるため、GX市場の創出に向けた取組、技術開発支援を進めるとともに、GX経済移行債を活用した、排出削減に資する製造プロセス転換や燃料転換の設備投資支援などを引き続き行ってまいります。

最後になりますが、10月13日に閉幕した大阪・関西万博には、累計約2,900万人もの皆様に御来場いただきました。さらに、運営費収支についても最大280億円の黒字が見込まれるなど、大きな成功をおさめることができました。これもひとえに皆様からの多大なる御支援と、ミyakミyakへの温かい御愛顧のおかげです。心より御礼申し上げます。

新たな時代に向け、経済産業省としては、これまでに述べたような様々な施策を総動員し、産業界の皆様とも連携しながら、素材産業の成長のために全力を尽くしていく所存です。この新しい時代を迎えるにあたって、皆様の御健康と御多幸を、そして紙・パルプ産業の更なる発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

令和7年度

紙リサイクルセミナー 開催報告

活動報告

センター日誌



令和7年度「紙リサイクルセミナー」は下記の通り開催され、盛況のうちに無事、終了いたしました。

本年度は星陵会館にてセミナーを開催しました。加えて、YouTubeでのライブ配信を並行して行うハイブリッド形式で実施しました。多くの関係者の皆様にご来場・ご視聴いただき、心より感謝申し上げます。

| | |
|-----|---------------------------------|
| 日 時 | 令和7年10月17日(金) 13時30分から16時15分 |
| 開 場 | 星陵会館 |
| 主 催 | 公益財団法人古紙再生促進センター |
| 後 援 | 経済産業省 |



<セミナープログラム>

| | | |
|------|---|----------------------|
| 開会挨拶 | (公財) 古紙再生促進センター 代表理事 | 長谷川 一郎 |
| 講 演 | I 「自治体の抱えるごみ処理問題解決に向けて求められる知恵」 日本経済新聞社 | 杉本 耕太郎 氏 |
| | II 「ごみゼロ社会の実現に向けて 一減量化の出発点『自分ごと化』を考える」 東洋大学 名誉教授 | 山谷 修作 氏 |
| | センターからのお知らせ (Towards 2030 & Beyond) | |
| 講 演 | III 「激動の国際環境下における製紙原料ビジネスの行方と日本の進路」 国際紙パルプ商事株式会社 上席執行役員 第1事業統括本部副本部長 兼 製紙原料営業本部長 | 中道 徹 氏 |
| | 閉会挨拶 | (公財) 古紙再生促進センター 副理事長 |
| 司 会 | (公財) 古紙再生促進センター 業務部長 | 中田 広一 |

開会挨拶要旨

公益財団法人 古紙再生促進センター 代表理事 長谷川 一郎

- ・ 昨年はセンター創立50周年記念シンポジウムを執り行ったことにより、本セミナーは2年ぶりの開催となる。多くの方にご来場いただき、心から嬉しく思う。
- ・ 本年9月の内閣府の月例経済報告において「米国の通商政策による影響が見られるものの、景気は緩やかに回復している」とされているが、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れを引き起こし、景気を下押しするリスクに留意する必要がある。
- ・ 我が国の本年1月～8月の古紙回収率は81.6%、古紙利用率は66.7%と非常に高いレベルを維持している。資源回収利用促進法に基づく古紙利用率の目標は令和7年度末において65%とされており、当該目標を達成する見込みとなっている。しかし、当センターとしては古紙利用率向上に向けた取り組みを継続し、自治体や紙リサイクル関係者等のステークホルダーと連携しながら諸活動を促進していく。
- ・ 当センターは本年度から開始した中長期的ロードマップ「Towards 2030 & Beyond」の一環として、未利用古紙の回収と利用を目指した地域循環共生社会づくりの啓発モデル実験である「雑がみ掘り起こしに向けて」に取り組んでいる。関係者に共通認識の形成を図りつつ、諸活動を促進していきたい。



講演概要

「自治体の抱えるごみ処理問題解決に向けて求められる知恵」

日本経済新聞社 杉本 耕太郎 氏

- ・ 自治体の抱えるごみ問題について、「人手不足」「財政難」「埋め立てスペースの減少」の3点に絞り、現状の課題や今後の取り組みについて講演した。
- ・ はじめに人手不足の問題について、市町村の清掃部門の職員はここ10年で約2割減少している。一方で、個別回収や要支援世帯対応の拡大、自治会機能の縮小・停止による回収箇所の増加等によって現場の負担は増加している。このような中、ごみ収集量における委託の割合も2023年度で53.6%に達し、実際の収集状況がブラックボックス化しており、何か問題があった際に市町村は直営に戻すことができるのか、という課題を抱えている。



- ・次に財政難の問題について、ごみ処理事業の経費は2023年度約2.3兆円に増加しており、2005年度対比では約2割増加している。要因としては、燃料費や人件費の高騰に加え、老朽化した施設の建替や解体といった建設改良費が挙げられる。また、高齢者の増加や自治会の縮小を背景とした収集所の増加や戸別回収への切り替え（ふれあい収集含む）といった収集形態の変化も挙げられる。収集箇所が増えることにより、収集費用も増大し、財政難の一因となっている。市町村における経常収支比率は90%超の高水準であり、財政のゆとりは乏しく、新規施策の余地は限られる。
- ・最後に埋め立てスペースの減少について、最終処分場の残余年数は約25年とされている。埋め立て地の残余年数を延ばす手段はごみの減量と資源化の徹底が必要である。
- ・これらの課題の解決策として、デジタル技術の活用や待遇改善が挙げられる。収集ルートや車両情報を共有するシステムを用いて収集効率を改善する取り組みや女性が働きやすい環境整備を行うことが必要である。また、住民や事業者を巻き込む施策も必要で、資源の売却益で奨学金制度を創設した自治体や東京都千代田区のように資源化しやすい製品開発を首長からメーカーに呼びかけを行った事例もある。これまで当たり前であった収集事業を持続することが困難な状況になりつつあることを住民と共有し、清掃行政は「住民対応の最前線」という価値を再認識して首長のリーダーシップのもと対応を進めていく必要がある。

講演概要

「ごみゼロ社会の実現に向けて 一減量化の出発点 『自分ごと化』を考える」

東洋大学 名誉教授 山谷 修作 氏

- ・ごみゼロ社会の実現に向けて、ごみ問題を「自分ごと」として捉える仕組みの必要性和家庭ごみの有料化を中心とした経済的手法の活用について講演した。
- ・ごみゼロ社会とは、処分するごみを可能な限りゼロにし、環境への負荷が小さい循環型のまちづくりを形成することである。これは排出者である市民や事業者がごみ問題を意識するだけでなく、実際の行動に繋げていくことが重要である。ごみゼロ社会の実現のためには、取組みの基盤として行政と市民、事業者との協働の体制づくりが課題となる。これまで行政はごみ減量の意識・関心を高める情報発信や分別排出の徹底に向けた啓発・指導の強化を行ってきたが、経済的手法の活用が不十分である。経済的手法の一例であるごみの有料化や記名式指定袋などの手法を活用し、ごみ処理を「自分ごと化」する手法が必要である。



- ・ 経済的手法の効果として、海老名市では家庭系可燃ごみの排出を有料化し、5年後には1人1日当たりの排出量が有料化前に比べ約2割減少した。また、有料化に伴い可燃ごみの排出量が減少するだけでなく、資源物として排出される各種資源の量が増加し、可燃ごみの発生抑制と分別強化の両輪で効果がみられる。札幌市では可燃ごみを有料化したことにより、プラスチックの分別協力率まで上昇し、可燃ごみにとどまらず他の品目・資源にまで分別徹底の効果が波及している。小平市では有料化に伴い家庭から出るごみの減量により積極的に取り組むようになったというアンケート結果が示された。また、同市で有料化実施後の有料化についての受け止めアンケートでは、有料化を肯定する意見が実施前に比べ約25%増加し、70%以上の市民が有料化に理解を示している。
- ・ 有料化や記名式指定袋といった経済的手法を用いたごみの「自分ごと化」は、これまで行政が実施してきた啓発や情報発信の内容を実際の行動に結びつける効果がある。ごみ処理施設の更新を迎える自治体にとって、ごみの減量は建設費の抑制にもつながる。持続可能な循環型まちづくりに向けた戦略において「自分ごと化」手法を積極的に活用することによって、将来にわたる処理費用の削減と環境負荷低減を実現することができる。

センターからのお知らせ

「Towards 2030 & Beyond」について

- ・ 古紙再生促進センターより、今後の中長期的課題とその対応を取りまとめた「Towards 2030 & Beyond」について説明を行った。
- ・ これに伴い公表した「サステナブルチャレンジ2050」では、社会変化や循環経済への進展を踏まえ、リスクと機会の両面から20の未来課題を抽出した。それを「企業と人が変わる」「環境と技術が変わる」「社会と地域が変わる」の3テーマでまとめ、ステークホルダーが共通認識を持つための資料として整理した。2030年までが社会課題解決のラストチャンスと位置づけ、事業運営を行う。
- ・ その中でも重要な取り組みとして、可燃ごみに含まれる「雑がみ」の掘り起こしが挙げられる。需給両業界に加え、自治体・学校・市民団体等の幅広いパートナーシップを基本とし、2025年を「パートナーシップ元年」として連携強化を進める。市民が雑がみを燃やさず回収する行動様式を「自分ごと化」できるストーリーづくりに取り組み、多様なステークホルダーをつなぐ役割を果たしていく。



「激動の国際環境下における 製紙原料ビジネスの行方と日本の進路」

国際紙パルプ商事株式会社 上席執行役員

第1事業統括本部副本部長 兼 製紙原料営業本部長 中道 徹氏

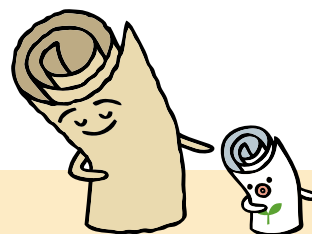
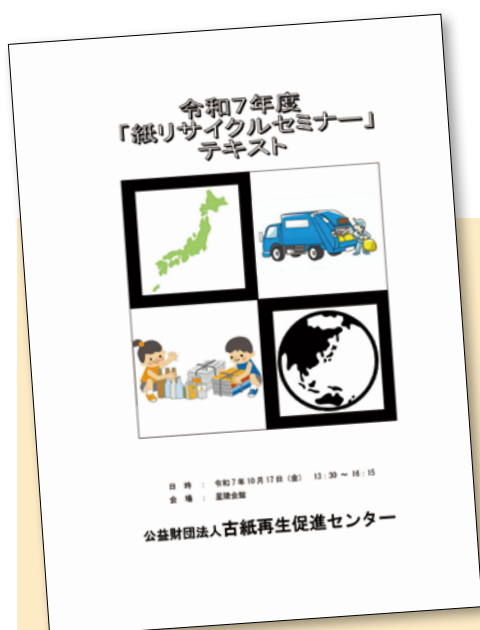
- ・世界の段原紙や古紙需給を取り巻く環境や日本の古紙市場における将来予測について講演した。
- ・2024年までに全世界で約4,000万トンの段原紙・古紙パルプの新設計画があったが、新型コロナ後の需要が伸び悩んだことや相互関税・物流の混乱による影響で稼働率が低下しており、世界的に設備過剰が問題となっている。特にアジア圏の段原紙マシンの稼働率は世界平均を大きく下回っている。一方で北米は計画的な設備廃棄を実施しており、90%台の稼働率を維持している。北米では上位5社が市場シェアの約75%を占めており、原燃料コストの製品価格転嫁が可能な環境となっている。EU・南米は相互関税の影響により、需要は低調に推移している。
- ・アジア圏の段原紙需要が拡大するに伴い、古紙の需要も増加する。しかし、古紙輸出国の輸出余力は減少傾向にあり、持続的な段原紙市場拡大のためには、東南アジア諸国の自国内での古紙回収促進が必要である。例えば、ベトナムにおいては2022年に環境保護法に関する政令を制定し、廃棄製品や包装材のリサイクルに関する拡大生産者責任制度を定めている。これが実行できない場合には環境保護基金への財政的な寄付といったペナルティも課せられており、古紙回収促進の制度設計が進んでいる。
- ・近年の中国の傾向として、段原紙と古紙パルプの輸入が増加し、国内における古紙回収量も増加している。また、木材パルプの生産量も増加しており、古紙輸入ライセンス枠の削減と並行して、国内古紙の回収を促進している。中国の段原紙輸入について、中芯原紙・ライナーともに輸入量は増加しているが、輸入価格は下落している。
- ・日本国内の古紙回収量は紙・板紙の消費量が減少傾向にあることで、減少が見込まれる。但し、未回収古紙1,665千トン（2023年試算）の掘り起こしが進むことで、一部補完することができる。古紙回収量が減少していくことが予想される中で、全国のヤード数は大きな変化はなく、古紙問屋における1ヶ月あたりの取扱量が減少することにより、収益の悪化も予想される。これからの古紙問屋に求められる経営として、①新規事業の開拓、②経営・ヤードの効率化、③他業種との差別化、④将来予測に基づいた経営戦略が必要である。
- ・今後の見通しとして、米国経済のリセッションのリスクや中国の低成長、日本の消費減退等の要因によって、短期的には調整局面が継続する可能性が高い。中長期的には、生産設備過剰による供給過多の解消のため、北米のような老朽化設備の計画的な廃棄が必要となる。世界的に地政学リスクが高まっており、景気回復・板紙需要の拡大には2~3年を要すると予想される。日本の古紙業界は、労働人口の減少や人件費・燃料費の高騰など問題が多くある。業界として、DX化の推進や同業他社との協業による回収効率の向上が急務である。今後も古紙全体に占める段ボール古紙の比率が上昇し、古紙問屋の収益性が低下することによる古紙問屋の淘汰結合が進む。また、SDGsの観点からも古紙は国内でのリサイクルが望ましい。



閉会挨拶要旨

公益財団法人 古紙再生促進センター 副理事長 大久保 信隆

本日の講演は多様な観点から紙リサイクルに関する講演をいただいた。杉本氏・山谷氏の講演では、全ての自治体で課題となっているごみ処理の問題は、ごみ問題を「自分ごと化」する取り組みが解決策の1つとなるというお話をいただいた。中道氏の講演では、様々な国際情勢に伴う古紙の市場動向と将来予測が示された。今後センターでは可燃ごみに含まれる「雑がみ」を資源として回収・促進する取り組みに力を入れていく。「雑がみ」を通じて、ごみ減量を自分ごととして捉え、古紙が減少する中で貴重な資源の一つとして回収を促進していきたい。今日は会場での参加並びに YouTube によるライブ配信を通じて多くの方にセミナーに参加していただいたことを改めて御礼申し上げ、閉会の挨拶とする。



今回の紙リサイクルセミナーの様子は当センターHPの「紙リサイクルセミナー動画配信特設ページ」に動画をアップロードしております。以下のURLまたはQRコードからご確認ください。



【URL】http://www.prpc.or.jp/activities/public_relations/seminarlive/

また、特設ページ内には当日配布した紙リサイクルセミナーテキストもアップロードしております。参考までにご確認ください。

今後のセミナー開催の参考にさせて頂ければと思いますので、講演、動画配信に対するご要望及びご意見がございましたら、アンケートにご協力の程よろしくお願い申し上げます。

さが 雑がみさまを探せ!

活動報告

センター日誌

実施報告

いしかわ環境フェア2025



実施概要

実施日 2025年11月1日(土)・2日(日)

実施場所 石川県産業展示館 3号館

ご協力 石川県再生資源事業協同組合

(敬称略)

概要 石川県で開催された「いしかわ環境フェア2025」に当センターから「雑がみさまを探せ!」のブース出展を行い、雑がみや紙のリサイクルについて啓発活動を行いました。ブースでは射的・古紙分別ゲームを実施しました。来場者には射的で身の回りにある古紙を狙っていただき、自分が打ち落とした古紙を家族と一緒に分別していただきました。未就学児～小学生を中心に多くの方に来場いただき、2日間で500名以上の方に参加いただきました。

実施報告

北九州エコライフステージ



実施概要

- 実施日** 2025年11月8日(土)・9日(日)
- 実施場所** 北九州市役所周辺、リバーウォーク周辺、船場広場、クロスロード
- ご協力** 株式会社イワフチ、王子エコマテリアル株式会社
日本資源流通株式会社、日本製紙株式会社 (敬称略・五十音順)
- 概要** 北九州市役所周辺にてブース出展を行い、来場いただいた皆様に古紙の分別ゲームを通じて「雑がみ」の啓発を実施しました。古紙の分別ゲームでは、射的で古紙を選び、自分たちが選んだ古紙を区分に従って分別していただきました。その中で身の回りに多くの雑がみがあることを認識いただき、貴重な資源であることをお伝えしました。2日間で500名以上の方に来場いただき、多くの方に雑がみが資源であることをお伝えすることができました。

令和7年度 センター日誌 10月～12月分

活動報告

センター日誌

| 月 | 日 | 会議名 | 主要議題 |
|-----|--------|--------------------------|---|
| 10月 | 3日(金) | 東北地区委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①業務委員会報告 ②集団回収感謝状推薦団体(案)について ③12月例会について ④その他 ・明日の行程について |
| | 17日(金) | 中部地区委員会 北陸分会 | <ul style="list-style-type: none"> ①古紙需給市況動向 ②集団回収感謝状贈呈推薦団体について ③「雑がみさまを探せ!」について ④その他 |
| | 21日(火) | 関東地区委員会 (Web会議システム併用) | <ul style="list-style-type: none"> ①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④関東地区古紙品質調査 古紙開梱組成結果(令和7年度 上期) ⑤段ボール、新聞、雑誌古紙 2025年7～9月消費実績 2025年10月～2026年3月消費計画 ⑥集団回収実施団体への感謝状の贈呈について ⑦その他 <ul style="list-style-type: none"> ○古紙再生促進センター 新年互礼会 開催日時: 令和8年1月7日(水) 13:00～14:30(予定) 場 所: 経団連会館ダイヤモンドルーム ○埼玉県庁オープンデー 開催日時: 11月14日(金) 10:00～16:00(予定) 場 所: 埼玉県庁 ○紙リサイクル出前授業(予定) 10月23日(木)足立区立千寿桜小学校、川越市立高階小学校 10月29日(水)足立区立東伊興小学校 11月13日(木)横浜市立川和東小学校 11月20日(木)足立区立弥生小学校 12月16日(火)港区立飯倉保育園 ○紙リサイクル研修会 10月23日(木)東京都中央区 11月19日(水)千葉県茂原市五郷福祉センター ○紙リサイクル研修会 「令和7年度自治体の新人廃棄物担当者向け研修」 2026年3月31日(火)まで録画配信中 プログラム(約95分間) ・「紙リサイクルの基礎知識」 当センター業務部業務課担当課長 濱野 彰吾 ・質疑応答 ○今後の関東地区委員会の開催予定 |

| 月 | 日 | 会議名 | 主要議題 |
|-----|--------|---------------------------|--|
| 10月 | 22日(水) | 中部地区委員会 東海分会 | <ul style="list-style-type: none"> ①古紙需給市況動向 ②「環境デーなごや2025」参加報告 ③価格転嫁・取引適正化について ④「雑がみさまを探せ!」について ⑤その他 |
| | 24日(金) | 九州地区委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①令和7年10月～11月の九州地区古紙需給状況及び品質について ②報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業 7月11日(金) 宮崎県延岡市立一岡小学校5年生 37名 8月27日(水) 熊本県八代市立麦島小学校1年生 45名 ・雑がみ回収大作戦 8月25日(月) 熊本県八代市立麦島小学校 178名参加(180kg回収) ・古紙リサイクルバスツアー 10月8日(水) 熊本県八代市立麦島小学校4年生 55名 場所: 日本製紙八代工場・株式会社南・エコイトやつしろ ③令和7年度地区活動計画 ④その他 |
| | 27日(月) | 10月度常任理事会 | <ul style="list-style-type: none"> ①集団回収実施団体への感謝状贈呈について(東北、関東、中部、近畿地区委員会の推薦) ②紙リサイクルセミナーについて(結果報告) ③規程類の整備について ④令和7年度第6回業務委員会議事次第について ⑤その他 ・今後のスケジュールについて |
| | | 第6回業務委員会 (Web会議システム併用) | <ul style="list-style-type: none"> ①各地区の古紙の需給・市況動向について ②2025年10月～3月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ③集団回収実施団体への感謝状贈呈について(東北、関東、中部、近畿地区委員会の推薦) ④紙リサイクルセミナーについて(結果報告) ⑤古紙開梱組成結果(中間報告) ⑥その他 ・今後の業務委員会等の開催予定 |
| | 29日(水) | 近畿地区委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①古紙の需給・市況動向について ②今後の近畿地区委員会の開催予定 |

| 月 | 日 | 会議名 | 主要議題 |
|-----|--------|---------------------------|--|
| 11月 | 11日(火) | 第2回 国際委員会 | ①古紙需給の現状及び見通しに関する情報交換 ・古紙発生の現状及び見直し報告 ・国内製紙会社の古紙消費の現状及び見直し報告 ・古紙輸出に関するトピックス及び見直し報告 ②海外情報 ・9月24-25日開催のFastmarkets (RISI) カンファレンス報告 ③その他 ・新年互礼会について ・次回のスケジュール |
| 11月 | 13日(木) | 中部地区委員会 甲信分会 | ①古紙需給市況動向 ②集団回収優秀団体表彰について ③「雑がみさまを探せ!」について ④その他 |
| 11月 | 17日(月) | 第2回 新潟分会 | ①古紙需給報告 ②「雑がみさまを探せ!」実施報告 ③地域循環共生社会づくり・啓発モデル実験について ④令和8年度以降の事業について ⑤集団回収団体感謝状贈呈式について |
| 11月 | 20日(木) | 北海道地区委員会 (Web会議システム併用) | ①古紙共販集計表について ②古紙需給動向について ③古紙消費実績と計画対比表について ④令和7年10月～令和8年3月古紙消費計画について ⑤北海道商組の古紙仕入・出荷・在庫量調査表について ⑥古紙の消費量と在庫量の推移 ⑦情報交換 ⑧その他 ・令和8年度の北海道地区委員会の活動(案)について ・その他 |

| 月 | 日 | 会議名 | 主要議題 |
|-----|--------|--------------------------|--|
| 11月 | 21日(金) | 関東地区委員会 (Web会議システム併用) | ①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④パッケージトレンドトピックス ⑤「主要古紙価格」調査終了について ⑥その他 ○集団回収実施団体への感謝状の贈呈については、10月27日開催の常任理事会にて承認されました ○「エコプロ2025」 12月10日(水)～12日(金) 東京ビッグサイト[東ホール]にて開催 ○古紙再生促進センター 新年互礼会 開催日時:令和8年1月7日(水) 13:00～ 場 所:経団連会館ダイアモンドルーム ○紙リサイクル研修会 11月25日(火)千葉県八千代市 ○紙リサイクル出前授業(予定) 12月 8日(月)川崎市立木月小学校 12月16日(火)港区立飯倉保育園 ○今後の関東地区委員会の開催予定 |
| 11月 | 26日(水) | 近畿地区委員会 | ①古紙の需給・市況動向について ②今後の近畿地区委員会の開催予定 |
| 11月 | 27日(木) | 静岡地区委員会 | ①古紙の需給・市況動向について 古紙の市況動向・品質状況報告 ②事務局からの連絡事項 ○広報事業について ・雑がみ分別・回収啓発促進活動報告 ・紙リサイクル出前授業 ・フェア出展について ・集団回収感謝状の贈呈について ○地区事業について ・研修会実施報告 ・新年互礼会の開催について ・情報・意見交換会について ③令和8年度予算(案)について ④その他 ・令和7年10月～令和8年3月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ・年末年始のメーカー古紙受け入れ計画の調査について ・今後の静岡地区委員会の開催予定 |

| 月 | 日 | 会議名 | 主要議題 |
|-----|--------|---------------------------------------|---|
| 12月 | 4日(木) | 11月度 常任理事会 | <ul style="list-style-type: none"> ①規定の制定・改正について ②2026年度(令和8年度)予算策定関連 ③国債の保有状況について ④新年互礼会について ⑤令和7年度第7回業務委員会議事次第について ⑥その他 ・今後のスケジュールについて |
| | | 第7回 業務委員会 (Web会議 システム 併用) | <ul style="list-style-type: none"> ①各地区の古紙の需給・市況動向について ②パッケージトレンドトピックス ③「主要国価格」調査終了について ④新年互礼会について ⑤その他 ・今後の業務委員会等の開催予定 |
| | 8日(月) | 中・四国 地区委員会 (Web会議 にて開催) | <ul style="list-style-type: none"> ①製紙メーカー生産状況・古紙入荷状況 ②各地区の古紙市況報告 ③質疑応答 ④事務局からの説明 ・今後の中・四国地区委員会の開催予定 |
| | 11日(木) | 九州地区 委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①令和7年11月～12月の九州地区古紙需給状況及び品質について ②令和8年3月開催 研修会について ③令和8年度九州地区委員会活動計画(案)について ④報告事項 ・北九州エコライフステージ2025 (11月8日～9日) ブース来場者数 11/8 320名 11/9 190名 合計510名 ・出前授業 令和8年1月26日(月)朝倉市立杷木小学校 ⑤その他 |
| | 12日(金) | 東北地区 委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①業務委員会報告 ②関東地区委員会報告 ③センター本部からの連絡事項 ④古紙の需給・市況動向について ⑤感謝状交付式について ⑥その他 |
| | 15日(月) | 中部地区 委員会 東海分会 | <ul style="list-style-type: none"> ①古紙需給市況動向 ②価格転嫁・取引適正化について ③「雑がみさまを探せ!」について ④その他 |

| 月 | 日 | 会議名 | 主要議題 |
|-----|--------|--------------------------------------|---|
| 12月 | 18日(木) | 第25回 家庭紙 委員会 | <p>第一部</p> <ul style="list-style-type: none"> ①古紙入荷・消費・在庫(2025年8月～10月) 古紙地域別入荷(向上) ②古紙の需給の現状及び見通しに関する意見交換 古紙発生の現状、見通し、古紙輸出、トピックス等 メーカー消費の現状及び見通し ③古紙の品質に関する情報交換 メーカーでの品質トラブル、禁忌品報告 ④その他 ・今後の家庭紙委員会の開催予定 <p>第二部</p> <p>「Fastmarkets24th Asian Conference Overview September 24-25th」 国際委員会委員長 中道 徹 様 (国際紙パルプ商事株式会社 上席執行役員 第1事業統括本部副本部長 兼 製紙原料営業本部長)</p> |
| | 24日(水) | 関東地区 委員会 (Web会議 システム 併用) | <ul style="list-style-type: none"> ①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④その他 ○地域循環共生社会づくり・啓発モデル実験について 「雑がみさまを探せ!」 ○全国小中学生「紙リサイクル」コンテスト2025 応募点数: 2,020点(前年2,955点) ○古紙再生促進センター 新年互礼会 開催日時: 令和8年(2026年)1月7日(水) 13:00～ 場 所: 経団連会館4階 ダイアモンドルーム ○紙リサイクル出前授業(予定) 2月14日(土) 板橋区立加賀小学校(いきいき寺子屋プラン事業) ○千葉大学「Chiba Fes 2026」出展 2026年2月15日(日) ○今後の関東地区委員会の開催予定 |

編集後記

明けましておめでとうございます。

さて、本号では、令和7年10月17日（金）に開催した紙リサイクルセミナーについて掲載しました。今年度の講演は、自治体の抱えるごみ処理問題解決に向けての提言や「自分ごと化」を通じてごみ減量を考える手法、国際環境下における製紙原料ビジネスの行方といった広く日本の紙リサイクルを考えていく上での内容が盛り込まれていますので、是非講演要旨をご覧ください。また、前月号に引き続き全国各地で実施した「雑がみさまを探せ!」の取り組みについて掲載しています。雑がみの掘り起こしはセンターの中核事業であり、今後も実施内容を継続して情報発信していきたいと思えます。

今後とも、会報では様々なセンター活動をお伝えして参ります。本年もセンター活動ついて、皆様のご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。
(武田)



地区委員会事務局

| 地区 | 郵便番号 | 所在地 | 電話番号 | FAX 番号 |
|------|----------|--|---------------|----------------|
| 北海道 | 060-0002 | 札幌市中央区北二条西2丁目 リージェントビル5階 | 011(271)1551 | 011 (232) 0017 |
| 東北 | 980-6003 | 仙台市青葉区中央4-6-1 住友生命仙台中央ビル3階 日本紙パルプ商事（株）北日本支社内 | 022(225)3359 | 022 (261) 4522 |
| 関東 | 104-0042 | 東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4階 | 03(3537)6822 | 03 (3537) 6823 |
| 静岡 | 417-0818 | 富士市末広20番地6 静岡県富士工業技術支援センター内 | 0545(35)5270 | 0545 (35) 5026 |
| 中部 | 450-0002 | 名古屋市中村区名駅3丁目25番9号 堀内ビル7階 | 052(582)1836 | 052 (581) 6943 |
| 近畿 | 541-0052 | 大阪市中央区安土町1丁目7番13号 トヤマビル7階 日本製紙連合会関西支部内 | 06(6262)6315 | 06 (6262) 6316 |
| 中・四国 | 799-0492 | 四国中央市三島紙屋町2番60号 大王製紙(株)内 | 090(9019)2059 | |
| 九州 | 866-0896 | 八代市日置町320-2 1号棟101号室 | 0965(37)8217 | 0965 (37) 8218 |

会報

news
LETTER

第52巻第1号
2026年1月13日

発行所

公益財団法人古紙再生促進センター

〒104-0042 東京中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4F

電話 03 (3537) 6822 (代表)

ホームページ <http://www.prpc.or.jp>

発行人 川上 正智

印刷所 日本印刷株式会社

リサイクル適性[®]

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

古紙再生促進センターは紙リサイクルが担うSDGsの6つの目標を設定しました



公益財団法人 古紙再生促進センター

